知的障害者への学びの場提供者・進学先等に係る文献調査報告

1. 特別支援学校以外の進学先・進学課程

前章では、知的障害者が特別支援学校（本科）の卒業後の進学先である専攻科を取り上げ、その教育内容や指導方法等に関する情報を整理した。事例数としては少ないが、専攻科以外にも進学先となる学校があり、知的障害者にとっての学びの場として機能している。

本章では、このような学校の事例について報告する。

1.1. 専修学校・高等学校の事例

（1） 学校法人池上学園池上学院グローバルアカデミー専門学校「社会生活学科」

■設置学科

池上学院グローバルアカデミー専門学校（北海道札幌市）は、「音楽療法科」「総合ゲーム学科」「情報システム科」「社会生活学科」を運営している専門学校である。

「社会生活学科」（男女・2 年制）は、コミュニケーション力を養いたいと考えている人や教育的支援を必要とする人を対象に、自立できるスキルや技術、資格の習得をめざす専門課程である。

一人ひとりの特性に合わせた個別指導や企業研修（職場体験）をはじめとする就労サポートも充実している。

■教育内容等[27]

以下に引用するのは、「社会生活学科」の時間割例である。

図表 1-1　時間割例

	月	火	水	木	金
1 9:30～10:45	ブレインジム	コミュニケーション	社会生活実習	基礎数学 I	基礎教養 I
2 10:55～12:10	芸術表現演習	人間生活論	社会生活実習	職務実践	文章購読 I
3 13:00～14:15	検定対策	パソコン実習	基礎国語 I	音楽表現	課外活動
4 14:25～15:40				エンカウンター	

27 学校法人池上学園池上学院グローバルアカデミー専門学校「IGA College Guide 2019」

図表 1-2　主な授業の内容

基礎国語・基礎数学	社会に出て必要な力、読み書きと計算の力をつける。個別学習なので、自分の力に合わせて学習を進めていくことができる。確かな力をつけていく池上方式の学習法。
芸術表現演習	点字アート、色彩理論、造形、デッサン様々な芸術表現を基礎から学び、応用力で楽しむ授業。あなたらしさを表現できる科目。
パソコン実習	Word や Excel の検定受験のほか、日常生活でパソコンを効果的に活用するための学習。インターネットの使用法や安全なパソコンの使い方を学習。
職務実践	インターンシップに向けて、社会で適用する立ち振る舞い、会話能力、また、より具体的な職業の基本的な実践能力を身につける。

取得可能な資格・検定は、「介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2 級)」「ガイドヘルパー（移動介護従事者)」の他、「Excel 表計算処理技能認定試験 3 級」「PowerPoint プレゼンテーション技能認定試験初級・上級」「Word 文書処理技能認定試験」「日本語ワープロ検定」「日本漢字能力検定」などである。

■卒業後の就職・進路先

北海道旅客鉄道株式会社（JR 北海道)、生活協同組合コープさっぽろ、株式会社サッポロドラッグストア、株式会社新札幌乳業、北海道はまなす食品株式会社、南空知リサイクルパーク株式会社、株式会社グロウスタッフ、株式会社北海道勤労者在宅医療福祉協会、株式会社アイ・エス・エフネットライフ、社会福祉法人北海道リハビリー、医療法人社団豊生会、株式会社ふきのとう、株式会社南富フーズ、北洋建設株式会社、勤医協札幌病院、札幌チャレンジド、太夢、専攻科　ほか

(2)　学校法人日章学園鹿児島城西高等学校「福祉共生専攻科」

■設置学科・コース

鹿児島城西高等学校（鹿児島県日置市）は、普通科の他、下表に示されるような職業に結びつく専門的な学科・コースを多数設置している高等学校である。これらのうち「普通科共生コース」と「福祉共生専攻科」は、軽度の知的障害のある生徒を対象とし、社会人としての自立を支援することを目的としている。

「普通科共生コース」の対象は、中学校または養護学校・特別支援学校中等部を卒業見込み者または卒業者で、軽度の知的障害があり療育手帳 B2 の者である。

「福祉共生専攻科」の対象は、高等学校または養護学校・特別支援学校高等部を卒業見込み者または卒業者で、軽度の知的障害があり療育手帳 B 級の者である。また、入学基準として「市町村から就労移行支援サービスの受給決定を受けられる者」「身辺生活の処理が確

立しており、ある程度の学力を有している者」などが規定されている[28]。

図表 1-3　設置学科

普通科アプリケーションコース	ヘアーデザイン科	調理科
普通科パティシエコース	トータルエステティック科	ビジネス情報科
普通科芸術文化コース	進学体育科	ファッションデザイン科
普通科進学・公務員コース	社会福祉科	福祉共生専攻科
普通科共生コース	ホテル観光科	
普通科ドリームコース		

■教育内容等

「福祉共生専攻科」は、教育と職業訓練を同時に進める「デュアルシステム」が特徴である。具体的には、次に引用する図表に示されるように、基礎教科と介護職員初任者研修の専門科目を学習する教育課程と障害福祉サービス事業（就労移行支援事業）に並行して取り組む構成となっている。

図表 1-4　専攻科教育課程と障害福祉サービス事業[29] [30]

区分		福祉共生専攻科教育課程										障害福祉サービス事業									
教科		基礎教科			介護職員初任者研修事業							生活支援・職業指導					職業指導				
科目		言語表現	数的処理	教養（芸術活動・英会話）	社会福祉基礎	介護福祉基礎	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護実習	こころとからだの理解	介護総合演習	調理	コミュニケーション	メイク・マナー	体力づくり	自立体験学習	パソコン操作	リラクゼーション	交通法規	産業現場等における実習	求職活動・職場定着活動
単位	1年	1	1	2	1	1	1	2	2	1	1	2	2	1	2	3	1	2	2	随時	随時
	2年	1	1	2	1	1	1	2	2	1	1	2	2	1	2	3	1	2	2		

福祉共生専攻科教育課程は、子どもから大人への心身の変化に適応し、社会参加していく上で必要となる社会生活力を養う「基礎教科」と、介護の専門知識・技能を学習する「介護

28 学校法人日章学園鹿児島城西高等学校「平成 31 年度福祉共生専攻科募集要項」
http://www.nissho.ac.jp/kjh/kagoshimajosei/pdf/2019_senkouka_admission_guidelines.pdf
29 学校法人日章学園鹿児島城西高等学校「福祉共生専攻科」
http://www.nissho.ac.jp/kjh/gakka/welfaresymbiosis/
30 学校法人日章学園鹿児島城西高等学校「福祉共生専攻科の教育課程・障害福祉サービス事業の内容」
http://www.nissho.ac.jp/kjh/kagoshimajosei/pdf/curriculum.pdf

職員初任者研修」で組み立てられている。その他、特別活動として、文化祭等の「文化的行事」やスポーツ教室等の「健康安全・体育的行事」、地域の清掃等の「奉仕的行事」、宿泊学習、研修旅行、社会見学といった取り組みも実施されている。

一方、障害福祉サービス事業では、同校の他学科や外部機関との連携の下、就労に必要な知識や能力向上のための職業訓練を実施する。訓練を通じてめざす資格として以下が示されている。

日本語ワープロ検定　　サービス接遇検定　　ビジネスマナー検定
危険物取扱者　　ボイラー取扱技能講習

■卒業後の進路

過去の実績として以下の企業・施設等が公開されている[31]。

（平成 26 年度）
・株式会社エーコープ鹿児島
・介護付老人ホームビクトリア街
・キューピータマゴ株式会社
（平成 25 年度以前）
・障害者就労アカデミー
・イオン九州株式会社　姶良サティ
・ワークステージつばさ
・みどりケ丘保育園
・社会福祉法人慶生会
・介護老人保健施設サンフローラみやざき
・株式会社タイヨー
・社会福祉法人晶貴会 特別養護老人ホーム 加治木望岳園
・特別養護老人ホーム三納の里
・株式会社ナカシン冷食

[31] 学校法人日章学園鹿児島城西高等学校「卒業後の進路先」http://www.nissho.ac.jp/kjh/sinrosaki/

(3)　学校法人八洲学園やしま学園高等専修学校「専攻科」

■設置学科

やしま学園高等専修学校（大阪府堺市）は、中学校卒業者を対象とする経理高等課程「商業科」（3 年制）と、高等学校卒業者（同等の学力を有する者）を対象とする経理専門課程「専攻科」（2 年制）を運営する全日制の学校である。

「商業科」が対象とする生徒は、「教科の学習が不得意で、勉強に自信のない人」「基礎学力（読み・書き・計算）が充分に積み上がっていない人」「運動や体育が苦手な人」「友だちができにくく、コミュニケーションが苦手な人」「発達障害の生徒及びそれらを背景とした不登校の人」としている[32]。

「専攻科」は、「LD（学習障害）やその傾向を示す生徒及びそれらを背景に不登校になった生徒」を対象としている。その教育目標は「社会的自立」で、「一人で生きていくことができる力を育むことを中心」とする教育を実践している。専攻科を創設した背景には、3 年間の高等学校教育では、すべての生徒が自立して社会に出ていくには期間が短いという思いが、生徒、保護者、教職員にあったという[33]。また、三愛学舎の報告で引用した講演資料「専攻科設置・学びの作業所づくりの運動について」（船橋秀彦氏（全国障害者問題研究会茨城支部））からの引用となるが、同校の谷口充校長は専攻科の創設について、以下のように語っているという[34]。

- 大人の思いとは裏腹に本人は我慢に我慢を重ね、言いたい事もいえず、嫌々働き、結果として職場で孤立して退職していった。彼らはけっして今すぐに働きたい訳ではなく、むしろやっと学校生活で自分を発揮できたころが卒業という時期ではと思います。
- 自分が自分らしく発揮できる場所としての専攻科があればその後の人生に変化があると思えてなりません。専攻科の設置はこのことが原点になりました。

■教育内容等

同校の教育内容として、「基礎学習」「自ら学ぶ学習」「体験学習」という 3 点が示されている[35]。

---

32 学校法人八洲学園やしま学園高等専修学校「平成 30 年度募集要項」
https://www.yashima.ac.jp/kousen/nyuugaku/yoko/index.htm
33 学校法人八洲学園やしま学園高等専修学校「学科紹介」
https://www.yashima.ac.jp/kousen/syoukai/gakka/index.htm
34 船橋秀彦「「専攻科設置・学びの作業所づくりの運動について－特別支援学校卒業後の進路選択・「第 3 の選択」の道を拓く－」
http://smilebbc.e-whs.net/ibaraki_senkouka/data/report/20131006/20131006.pdf
35 学校法人八洲学園やしま学園高等専修学校「教育内容」
https://www.yashima.ac.jp/kousen/syoukai/naiyou/index.htm

図表 1-5　教育内容

○基礎学力 社会にでて「生きていくことができる力」を身につけるため基礎学力（読む、書く、計算する）を中心とした習熟度別の学習を行っています。また、個々に生徒の学習面でのつまずきの原因を把握し、指導をしています。 ○自ら学ぶ学習 個々の生徒が興味や関心を持ち、「自ら考え、自ら学ぶ学習」を行うことにより、学ぶ楽しさ、わかる喜びをみつけていきます。これこそが「真の学力」であると私達は思っています。 ○体験学習 宿泊実習や体験的な実習を通じて、社会性を身につけます。夏季登山、地域のバザーや夏祭りなど校外へ参加することによってたくさんの人とふれあい、自らの興味、関心、適性への理解を深めながら、いろいろなことを学びます。

1.2. NPO 法人等の事例

(1)　やしま研究科

■概要

やしま研究科（大阪府堺市）は、やしま学園高等専修学校「専攻科」を卒業した後も継続的な学びの場が欲しいという要望に応えるために、「専攻科の先をさらに延長し、充実した生活体験を重ねていくことで自分らしく豊かに生活面でも学べる場」として設けられた学科である。

運営主体は、特定非営利活動法人「青年の学びと生活を保障する会」で、同法人はやしま研究科の運営を目的に設立された（2017 年 4 月）[36]。

■教育内容等[37]

やしま研究科での学びについて、「豊かに生きるための学力」の育成とし、「「できる」から「わかる」への転換」をキーコンセプトとしている。

「これまでの学びは「できること」に重点が置かれ、成績を点数化し、その結果として競争が生まれた」と指摘した上で、研究科での学びについて次のように説明している。

> 研究科の学びは“できること”の学びから脱却し、わかる学びに転換していきます。学びを自分で使える力にして実践し確実な生きる力としていきます。学びが

36 特定非営利活動法人青年の学びと生活を保障する会「やしま研究科」https://y-kenkyuka.jimdo.com/
37 特定非営利活動法人青年の学びと生活を保障する会「研究科教育課程」https://y-kenkyuka.jimdo.com/

確実になれば生活が豊かに広がることを体験していくことを目的とした教育課程を作成します。

さらに、高等課程・専攻科と対比しながら次のように説明している。

図表 1-6　高等課程・専攻科・研究科それぞれの学び

高等課程 やしま学園高等専修学校	思春期・青年期に生き生きとした社会生活を送るための土台づくり
専攻科 やしま学園高等専修学校	仲間や周囲とのふれあいを通じて新たな自分づくりと社会で自信を持てること
研究科 青年の学びと生活を保障する会	自律より確実にしていくため自分づくりの上に、さらに自分に磨きをかけ、仲間とともに生きがい、働く喜び、働きがいを模索しながら社会に羽ばたく力と社会の中で豊かに生きる力を発揮できること、仲間や周囲とのふれあいを通じて新たな自分づくりと社会で自信を持てること

■補足

知的障害者の進学先となる専攻科の設置を求める活動が全国規模で広がっているが[38]、この「やしま研究科」は、専攻科の卒業生を対象とする学科という点で非常に画期的、先駆的である。後に報告する法定外の大学（見晴台学園大学、シャローム大学）もアプローチは異なるものの、専攻科以上の高等教育を志向している点は共通している。このような高等部の卒業者に対する教育の展開は継続して注目しておく必要がある。

[38] 全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会　http://www.geocities.jp/zensenken/index.html

(2)　見晴台学園高等部専攻科

■学園の概要

発達障害・学習障害児の学園見晴台学園（愛知県名古屋市）は、軽度の発達の遅れを持つ発達障害の子ども・青年や学習障害児のための無認可の学園である[39]。中等部、高等部本科・専攻科があり、高等部は本科 3 年、専攻科 2 年の一貫教育である。その他、法定外の大学である見晴台学園大学、障害者自立支援法に基づく自立訓練・就労移行支援サービス「ら・びすた」がある。また、学園卒業後の自立をサポートする自立支援センター「るっく」も併設している。

運営の主体は、特定非営利活動法人「学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会」だが、同会は「補助のない厳しい財政の中、豊かな教育を求めて親と教職員が手を携え運営している“父母立の学校”」と説明している[40]。

■教育内容等

見晴台学園のカリキュラムでは、教科を「言語と数量」「自然と社会」のように大きな枠組みでとらえている。学習形態も教材も生徒の個別の課題や特性に配慮し、何より生徒自身が学ぶ主体者であることを大切に考えている。授業は年度ごとに生徒の課題に合わせてカリキュラムを組み、「わかって意欲が出る授業」「力を出し切って達成感の得られる行事」「生徒の要求に応え、教員も父母も協力して豊かな教育活動」を創造すると謳っている[41]。

図表 1-7　見晴台学園のカリキュラム [41]

39 無認可校のため高等部を卒業しても高校卒の資格は得られない。中等部は義務教育期間で中学校に籍を置いたまま学園に通学する。学園に通学した日数は出席扱いとなるケースがほとんどだという。

40 見晴台学園「学園の概要」http://miharashidai.com/guidance/outline/

41 見晴台学園「カリキュラムのご紹介」http://miharashidai.com/curriculum/introduction/

(3)　　見晴台学園大学「教養学部現代教養学科」

■概要

見晴台学園大学は、高等部本科・専攻科での 5 年間の学びを終えた後も「まだ学び足りない」「もっと学びたい」と大学などの学びの場を求める声の高まりに対応すべく、2013 年 10 月に開校された法定外の大学で、設置学部学科は「教養学部現代教養学科」である。

高等部卒業後に求める学びとは、「「仕事が決まるまでの一時待機」や「就労のための訓練」ではなく、広く世の中を見、真実を知り、大事なことを見抜く力をつけ、自分らしく豊かな人生を生きるためにもっと学びたいというもの」であり、同大学はこのような期待・要望に応えるために、以下の目標の実現を図り、「学ぶこと」「働くこと」「生きること」の三位一体のキャリア教育によって自らの能力を開花させ、今を生きる青年のライフスタイルの構築を目指している[42]。

① 現代を生きる青年にふさわしい教養
② 幅広い視野を持ち意見を表明する力
③ 人とつながり仲間を作る力

■教育内容等

見晴台学園大学教養学部現代教養学科の教育課程は「基礎課程」（1・2 年）「専門課程」（3・4 年）で構成されている。各課程の科目と配当年次を以下に一覧で示す。

なお、卒業時までに必要な単位は、基礎課程 2 年間 62 単位、専門課程 2 年間で 72 単位、合計 134 単位となっている。

図表 1-8　基礎課程履修科目[43]

科目区分	授業科目	1 年単位	2 年単位	開設単位	必須単位
基礎科目	言語と生活Ⅰ	4		4	8
	言語と生活Ⅱ		4	4	
	芸術と生活Ⅰ	4		4	8
	芸術と生活Ⅱ		4	4	
	科学技術と生活Ⅰ	4		4	8
	科学技術と生活Ⅱ		4	4	
	人間と生活Ⅰ	4		4	8
	人間と生活Ⅱ		4	4	
	ボディランゲージⅠ	2		2	4
	ボディランゲージⅡ		2	2	

[42] 見晴台学園大学「大学案内」http://daigaku.miharashidai.com/about/
[43] 見晴台学園大学「基礎課程履修科目」http://daigaku.miharashidai.com/admission/kisokatei/

		健康と生活Ⅰ	2		2	4
		健康と生活Ⅱ		2	2	
		情報と生活	2		2	2
演習		基礎演習Ⅰ	4		4	8
		基礎演習Ⅱ		4	4	
実習	1	ボランティア活動Ⅰ	2		2	4
		ボランティア活動Ⅱ		2	2	
	2	スポーツ実習Ⅰ	2		2	4
		スポーツ実習Ⅱ		2	2	
	3	フィールドワークⅠ	2		2	4
		フィールドワークⅡ		2	2	
		計	32	30	62	62

図表 1-9　専門課程履修科目[44]

科目区分	授業科目	3年単位	4年単位	開設単位	必須単位
基礎科目	平和と社会Ⅰ	2		2	4
	平和と社会Ⅱ		2	2	
	世界の人々と文化Ⅰ	4		4	4
	コミュニケーション実践演習Ⅰ	2		2	4
	コミュニケーション実践演習Ⅱ		2	2	
	生活と科学Ⅰ	2		2	4
	生活と科学Ⅱ		2	2	
	芸術と人間Ⅰ	2		2	4
	芸術と人間Ⅱ		2	2	
	地域社会と文化Ⅰ	2		2	4
	地域社会と文化Ⅱ		2	2	
	ボディランゲージⅠ	2		2	4
	ボディランゲージⅡ		2	2	
	教養と人生Ⅰ	2		2	2
	教養と人生Ⅱ		2	2	
	法と社会Ⅰ		2	2	2
	自然科学と人間Ⅰ	2		2	4
	自然科学と人間Ⅱ		2	2	

44 見晴台学園大学「専門課程履修科目」http://daigaku.miharashidai.com/admission/senmonkatei/

	科学と技術Ⅰ	2		2	4
	科学と技術Ⅱ		2	2	
	発達と教育Ⅰ	2		2	4
	発達と教育Ⅱ		2	2	
演習	現代教養演習Ⅰ	4		4	4
	卒業演習Ⅰ		4	4	4
実習	フィールドワークⅠ	2		2	4
	フィールドワークⅡ		2	2	
	プロジェクトⅠ	2		2	4
	プロジェクトⅡ		2	2	
	ボランティア活動Ⅰ	2		2	4
	ボランティア活動Ⅱ		2	2	
	スポーツ実習Ⅰ	2		2	4
	スポーツ実習Ⅱ		2	2	
	計	56	48	100	72

(4) シャローム大学「教養学部社会教養学科」

■概要[45]

シャローム大学（埼玉県和光市）は、2019 年度開学予定の法定外の大学である。設置学部学科は「教養学部社会教養学科」で、ここでは人文学系の基本学習を中心に人間が集まる社会における事象についての探求をめざす。

運営は、法定外シャローム大学運営委員会で、組織母体、本学教員、生徒保護者、地域の方々で構成される。うち組織母体は、障害者向けの各種支援並びに福祉教育支援を目的として 2015 年に設立された一般財団法人福祉教育支援協会（埼玉県所沢市）である。

■教育内容等

同校の教育理念は、学生ひとり一人の特性を受け入れることを前提に、以下の点を留意していくとしている。

- ○ 技能の取得を目指すのではなく、青年期の人格形成を目的とする
- ○ 課程科目の内容は学部の主旨に沿った上で、多様な学習内容から構成する
- ○ 授業及び活動が習得しやすい時間枠で維持する
- ○ サブティーチャーの配置等、学びへのサポートを的確に行う

[45] 法定外シャローム大学設立準備事務局兼プレ開校研究室「法定外シャローム大学 2019 年度大学案内」

カリキュラムは「基礎課程」と「専門課程」で構成されている。1・2 年次の「基礎課程」は、学習の初期段階として、教養の基礎要素である言語や芸術等について学習し、学び方を知り、自主的な学習を体感していく課程である。3・4 年次の「専門課程」では、基礎課程で得た学習方法を使い、人文学領域での専門的な知識を得ながら、自己の関心を学びへとつなげ、「論文」の形で発表する。

また、「DVD によるリラーニング」も用意され、一回の講義では分からなかった部分を収録した映像を見直すことで、分からない部分をクリアにする時間を設けている。

以下に各課程の科目と単位、配当年次を示す[46]。

図表 1-10　基礎課程履修科目

科目区分	授業科目	1 年単位	2 年単位	開設単位	必須単位
基礎科目	言語と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	言語と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	芸術と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	芸術と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	科学技術と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	科学技術と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	人間と生活Ⅰ	4		4	8
基礎科目	人間と生活Ⅱ		4	4	
基礎科目	健康と生活	2	2	4	4
基礎科目	情報と生活	2		2	2
演習	基礎演習Ⅰ	4		4	8
演習	基礎演習Ⅱ（課程修了論文）		4	4	
実習 1	オリエンテーションⅠ	2		2	4
	オリエンテーションⅡ		2	2	
実習 2	ボランティア活動Ⅰ	2		2	4
	ボランティア活動Ⅱ		2	2	
実習 3	スポーツ実習Ⅰ	2		2	4
	スポーツ実習Ⅱ		2	2	
実習 4	フィールドワークⅠ	2		2	4
	フィールドワークⅡ		2	2	
	計	32	30	62	62

46 法定外シャローム大学「学部紹介」http://shalom.wess.or.jp/study/

図表 1-11　専門課程履修科目

科目区分	授業科目	1年単位	2年単位	開設単位	必須単位
基礎科目	法と社会Ⅰ	4		4	8
基礎科目	法と社会Ⅱ		4	4	
基礎科目	自然科学史Ⅰ	4		4	8
基礎科目	自然科学史Ⅱ		4	4	
基礎科目	国際関係論Ⅰ	4		4	8
基礎科目	国際関係論Ⅱ		4	4	
基礎科目	メディア論Ⅰ	4		4	8
基礎科目	メディア論Ⅱ		4	4	
基礎科目	政治哲学と倫理		2	2	2
基礎科目	宗教学		2	2	2
基礎科目	地域社会と文化（全国一般）	2		2	2
基礎科目	地域社会と文化（関東地方）		2	2	2
基礎科目	ビジネスコミュニケーションⅠ	2		2	4
基礎科目	ビジネスコミュニケーションⅡ		2	2	
演習	現代教養演習	4		4	8
演習	卒業演習（卒業論文）		4	4	
実習 1	プロジェクトⅠ	2	2	4	4
	プロジェクトⅡ	2	2	4	
実習 2	ボランティア活動Ⅰ	2	2	4	4
	ボランティア活動Ⅱ	2	2	4	
実習 3	スポーツ実習Ⅰ	2		2	4
	スポーツ実習Ⅱ		2	2	
実習 4	フィールドワークⅠ	2	2	2	4
	フィールドワークⅡ	2	2	2	
	フィールドワークⅢ	2	2	2	
	計	40	44	86	70

上記以外の「特別カリキュラム」として、以下のプログラムも用意されている。

- ○　社会参加として、各種ボランティア活動
- ○　テーマパーク、博物館、美術館などの見学
- ○　合宿でのボランティア研修（災害被災地）
- ○　高卒認定学習

2. 学びの作業所

2.1. 学びの作業所の概略

(1) これまでの経緯～福祉制度を活用した高等部卒業者への教育の展開

「学びの作業所」とは、障害者総合支援法上の制度である「自立訓練（生活訓練）事業」を活用して、特別支援学校高等部卒業後の「専攻科」のような“教育的機能”を意識した学びの場を提供している事業所をさす。

最初の「学びの作業所」とされるのは、社会福祉法人ふたば福祉会「たなかの杜」（和歌山県田辺市）の中に置かれた生活訓練事業「フォレスクール」である（2008 年）。障害者“福祉”の事業である作業所の制度の中で、“教育”を保証したことから当初は「学ぶ作業所」と呼称された。生活訓練事業では、対象として「養護学校の卒業生」が明示されており、「日常生活能力を向上するための支援」を専攻科教育に相当する内容にして実施できるのではないか、という発想・着想が、この取り組みの起点となっている。

その後、社会福祉法人きのかわ福祉会（和歌山県岩出市）が 2011 年に設置した「シャイン」が「学びの作業所」と言い換えて以降、この呼び名が広がることとなった。

その一方で、生活訓練事業はあくまで“福祉”であり、“教育”の肩代わりをするものではないとの一部行政からの指摘もあり、「学び」という表現を避けて、「福祉事業型専攻科」という呼び名も登場した。

さらには、社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会（福岡県鞍手郡）は生活訓練事業の 2 年間に就労移行支援事業の 2 年間を加えた 4 年間の一貫教育プログラムを構築し、「福祉型大学」と呼ぶ 4 年制の学びの場を実現した。

こうした様々な経緯の中で、福祉制度を活用した高等部卒業後の教育の場に対して「学ぶ作業所」「学びの作業所」「福祉事業型専攻科」「福祉型大学」といった呼称が生まれたが、いずれもその実態は生活訓練事業を活用した「専攻科代替的」な教育の実施である[47]。

2008 年に和歌山県で始まったこの取り組みは、その後西日本を中心に拡大し、近年では東北・北海道でも開設されている。正確な数は不明だが、2019 年開設予定も含め全国で 40 事業所以上とされている。

このような「学びの作業所」の増加の背景には、知的障害者の進学先となる専攻科の増設に対する全国的な動き「専攻科づくり運動」がある。具体的には、全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会の活動や、「紀南養護専攻科を考える会」のような地域に根差した保護者や教員らによる草の根的な動きもある。「学びの作業所」は教育機関ではないが、教育を切実に求める障害者やその保護者、教員らの声に対して、専攻科の増設がままならない中、現実的な種々の制約の中で生み出された解決策という見方もできよう。

---

[47] 伊藤修毅「自立訓練（生活訓練）事業の教育的機能に関する一考察」「立命館産業社会論集」所収（2015 年）

(2)　自立訓練（生活訓練）事業を活用している学びの場

2008 年のたなかの杜「フォレスクール」以降、学校から社会への移行期における学びの場を提供する「学びの作業所」は年々、増加の傾向にある。

図表 2-1　学びの作業所[48] [49]

開設年	設置者・名称等	場所
2008 年	社会福祉法人ふたば福祉会 たなかの杜「フォレスクール」	和歌山県田辺市
2009 年	社会福祉法人一麦会　はぐるま作業所「結い」	和歌山県和歌山市
2010 年	社会福祉法人きのかわ福祉会　自立訓練「シャイン」*	和歌山県岩出市
	社会福祉法人ひまわり福祉会　ひまわり作業所「ラ・ポルテ」	和歌山県有田市
2011 年	NPO 法人サポートセンタージョイ　「かがやきの杜ジョイ」	岡山県倉敷市
	株式会社 WAP コーポレーション「エコール KOBE」	兵庫県神戸市
	一般社団法人「チャレンジキャンパスさっぽろ」	北海道札幌市
	社会福祉法人熊野緑会　なぎのき作業所「ステップ」*	和歌山県新宮市
	社会福祉法人よさのうみ福祉会　多機能型支援センターろな*	京都府丹後市
2012 年	NPO 法人大阪障害者支援センター「ぽぽろスクエア」	大阪府松原市
	NPO 法人プエルタ「プエルタ」	京都府京都市
	社会福祉法人鞍出ゆたか福祉会「カレッジ福岡」**	福岡県福岡市
	社会福祉法人一峰会　あすなろ作業所「ステップ」	和歌山県海南市
	NPO 法人いちご一会「いちご一会」	岡山県倉敷市
2013 年	一般社団法人みやこいち福祉会「ジョイアススクールつなぎ」	奈良県奈良市
	社会福祉法人鞍出ゆたか福祉会「カレッジながさき」**	長崎県大村市
	社会福祉法人やおき福祉会（発達障害を対象）	和歌山県田辺市
	社会福祉法人鞍出ゆたか福祉会「カレッジ早稲田」**	東京都新宿区
2014 年	社会福祉法人鞍出ゆたか福祉会「カレッジ北九州」**	福岡県北九州市
	社会福祉法人いずみ野福祉会「シュレオーテ」	大阪府岸和田市
	社会福祉法人木犀会「まなーる　もちの木」	茨城県水戸市
	社会福祉法人鞍出ゆたか福祉会「カレッジ久留米」**	福岡県久留米市
	株式会社きると「スクールきると伊丹校」**	大阪府伊丹市
	株式会社きると「スクールきると梅田校」**	大阪府大阪市
	社会福祉法人共生シンフォニー「くれおカレッジ」**	滋賀県大津市
	社会福祉法人蒲生野会「プリズム・カレッジ」	滋賀県東近江市

48 船橋秀彦「障がい青年の専攻科設置・「学びの作業所」づくり運動の意義と課題」（2014）

49 田中良三「自立訓練事業等を活用した「学校から社会への移行期」における学びのプログラム及び支援について（メモ）」（学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議用資料）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/041/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2018/06/21/1406219_5.pdf

	合同会社Y・Y・H「ドリームスクール・はぎ」	山口県萩市
	社会福祉法人ライフサポート協会「障がい児者余暇生活支援センターじらふ・じらふ住之江」「生活訓練センターつみき」	大阪府大阪市
2015年	一般社団法人エル・チャレンジ「L's college おおさか」	大阪府大阪市
	NPO法人ライフカンパニー新富「チャレンジキャンパス」	宮崎県宮崎市
	NPO法人まなびや「まなびキャンパスひろしま」	広島県広島市
	NPO法人ちゃお「アートカレッジちゃお」	長野県諏訪市
2016年	NPO法人茨城の専攻科を考える会「シャンティつくば」	茨城県つくば市
	有限会社市民社会成熟研究所「デコベル」	茨城県古河市
2017年	社会福祉法人旭川荘「カレッジ旭川荘」**	岡山県岡山市
	社会福祉法人響福祉会「フリーキャンパスひびき」	大阪府東大阪市
	NPO法人ライフデザイン「自立訓練パルジャ」	岡山県総社市
	社会福祉法人麦の里「ユーススコラ鹿児島」	鹿児島県鹿児島市
2018年	NPO法人真・善・美「カレッジ郡山」	福島県郡山市
	一般社団法人えにし「まなびの杜みっけ」	北海道札幌市
	NPO法人ラルゴ「みやぎ学びの作業所ネットワーク・ラルゴ」	宮城県仙台市
2019年	株式会社ノザワコーポレーション「KINGOカレッジ」	新潟県新潟市

※2019年は開設予定

※表中「設置者・名称等」の「*」は3年間、「**」は4年間

2.2. 学びの作業所の先行研究

(1) 先行研究の概略

学びの作業所において実施されている教育内容に関する調査研究として「知的障害者継続教育の教育課程及びニーズに関する研究」(2013～2014年)がある[50]。これは、日本福祉大学の伊藤修毅准教授らによる取り組みで、その目的は「自立訓練(生活訓練)事業所が行っている、継続教育機能(特別支援学校高等部修了後の学びの拡充を保障する機能)の現状を把握・分析すること」を目的としている。

調査の方法は郵送アンケート方式で、独立行政法人福祉医療機構が運営する情報サイトWAM NETに掲載されていた、主たる対象者に知的障害者を含む通所型自立訓練(生活訓練)事業所1、158件が対象とされた。有効回答数は449件、そのうち「学びの事業所」に該当する事業所の回答は23件であった。

[50] 伊藤修毅「知的障害者継続教育の教育課程及びニーズに関する研究」(科学研究費助成事業研究成果報告書) https://kaken.nii.ac.jp/ja/file/KAKENHI-PROJECT-25870880/25870880seika.pdf

アンケートでは、事業所が実施しているプログラムの時間数や具体的な活動内容、特に重視している内容などについて質す設問が置かれた。

本節では、この先行研究の結果を引用しながら、「学びの作業所」で実施されている教育の内容について確認をしていくこととする。

(2) 調査の結果[51]

次に引用するのは、回答事業者の「標準的な 1 週間」における活動内容の比率をまとめたものである。

図表 2-2 「学びの作業所」におけるプログラムの構成比

領域	領域の特徴	平均	最大値	最小値
(1)くらし	人との関わり、社会生活や家庭生活を豊かにすることを主たる目的とした活動	28.9%	65.2%	8.3%
(2)労働	働くとはどういうことか、仕事探し、仕事の体験など労働生活を豊かにすることを主たる目的とした活動	22.1%	56.0%	0.0%
(3)余暇	生涯スポーツや趣味の活動など、余暇を豊かに過ごすことを主たる目的とした活動	18.6%	50.0%	5.6%
(4)教養	英語、法律・制度など、さまざまな教養を身につけることを主たる目的とした活動	12.7%	40.0%	0.0%
(5)研究ゼミ	自分でテーマを考え、調べ、まとめ、発表することを主たる目的とした活動	5.4%	13.0%	0.0%
(6)その他	(1)～(5)に分類することが困難な活動	12.2%	40.0%	0.0%

次は各領域における具体的な活動内容をまとめたものである。

図表 2-3 具体的な活動内容

領域	
(1)くらし	コミュニケーション能力育成（挨拶、聴く力、話す力など）、調理計画・実習、日常生活でのマナー、体調管理・身体力向上、金銭管理、家事（食器洗い・掃除・裁縫・洗濯など）、ソーシャルスキルトレーニング、大学生や他施設などとの交流、ADL の向上
(2)労働	レザークラフト・パソコン・ハーブなどからの就労選択講義、仕事の種類を学

51 伊藤修毅「自立訓練（生活訓練）事業を活用した「学びの作業所」のプログラムについて～実態調査より～」（学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議用資料）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/041/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2018/06/21/1406219_5.pdf

	ぶ、ビジネスマナーの学習、オフィスワークの基礎、作業を通した「ほう・れん・そう」や協調性の学び、就労体験、就職活動（履歴書の作成・職業理解など）、働くことの基礎知識、模擬喫茶店の開店
(3)余暇	音楽・美術・パソコンなどからの余暇選択講義、野外活動
(4)教養	国語（作文・詩・劇・しりとり・音読など）、算数・漢字などのプリント学習、PC 学習、調理実習、生活の基盤となる基礎的能力をつける学習（対人マナー・性教育など）、生活リズムや健康についての話し合い
(5)研究ゼミ	興味・関心のあることをテーマに調べ、まとめ、発表する

以下は、特別支援学校専攻科との比較を目的に、上記(1)～(5)の領域を「職業系」「教科系」「生活系」の 3 領域に再編し、それぞれの最小値・最大値・平均値を算出したものである。

図表 2-4　「学びの作業所」におけるプログラムの構成比

領域	最小値	最大値	平均	標準偏差
①職業系	0%	56%	20%	15.4
②教科系	0%	36%	16%	10.5
③生活系	30%	100%	48%	15.8

※①職業系：(2)労働　　②教科系：(4)教養　　③生活系：(1)くらし・(3)余暇

この結果に対して、「全体的な構成比としては、職業系・教科系がやや低く生活系がやや高いと言えるが、職業系・生活系は事業所間のバラツキが大きく、教科系にはそれほどのバラツキがないとみることができる」とし、「教科系は必ずしも長時間ではないものの、多くの事業所が一定量取り入れている。職業系は少なめ、生活系は多めであるが、職業系・生活系は事業所によって、その構成比は大きく異なる」と分析している。

2.3. 具体的な事例

(1)　フォレスクール

■概要

学びの作業所「フォレスクール」（和歌山県田辺市）は、社会福祉法人ふたば福祉会たなかの杜に置かれた自立訓練（生活訓練）事業である。設立は 2008 年で、設立に向けた動きの中心となったのが「紀南養護学校専攻科を考える会」という、はまゆう養護学校に通う生徒の保護者らの活動であった。はまゆう養護学校高等部には専攻科がなく、近隣に職業訓練機関等もないため、高等部の卒業生には進学という選択肢はなかった。これに疑問を持ち、高等部卒業後の継続的な学び（青年期教育）の場の必要性を強く感じた保護者たちは、行政に対して専攻科の新設を求めたが、財政上の理由などから快諾は得られなかった。こうしたいきさつの中から結成されたのが「紀南養護学校専攻科を考える会」である。同会は、障害者対象の青年期教育の場を「教育」（養護学校）ではなく、「福祉」（障害者福祉施設）に求めるアプローチを取ることとし、事業展開をしてくれる施設を探す活動を展開した。その成果として生まれたのが「フォレスクール」であり、これが福祉のしくみを活用した青年期教育実践の場「学びの作業所」の第 1 号となる[52]。

■教育内容等[53]

「フォレスクール」の目標は「日常・社会生活能力を身につけると共に、社会・他人との関わりや大人になるための文化・ゆとりを習得し、少しでも人間として成長してから社会にはばたけるようにする」「何事にも意欲的・積極的に自信を持って取り組める「自立した社会人」を目指す」としている。

図表 2-5　フォレスクールの 1 週間のプログラム

	月	火	水	木	金
9:00	朝の会（当番制・メンバーが行います）				
9:15	特別プログラム（陶芸）	グループ活動	経済（パソコン）	特別活動（押し花・カード作り）	生活講座（住）
	昼食・休憩				
12:00 13:00	グループ活動	特別活動（体動かし）	生活講座（言語）SST	特別プログラム（ジャズダンス）	生活講座（住）
15:00	終わりの会（当番制・メンバーが行います）				

52 紀南養護学校専攻科を考える会「活動履歴」 http://kangaeru.yu-yake.com/katudou.html
53 社会福祉法人ふたば福祉会たなかの杜「フォレスクールガイド」
http://kangaeru.yu-yake.com/guide.pdf

生活講座（衣）	服装、化粧、洗顔、裁縫、身だしなみ、おしゃれ
生活講座（食）	調理、栄養、食事マナー
生活講座（住）	掃除、洗濯、整理整頓、性教育、健康
生活講座（言語）	挨拶、マナー、電話、コミュニケーション、SST
経済	数・数量の概念、電卓、買い物、パソコン
特別プログラム	ジャズダンス、フラワーアレンジメント、陶芸、音楽療法等 （その道のスペシャリストを講師に招く）
グループ活動	１つのテーマへ向かう議論の場
特別活動	農耕、体動かし
年間行事	野外活動・健康診断・職場実習・グループホーム体験入居・研修旅行・季節に応じた行事などを予定

(2) シャイン

■概要

学びの作業所「シャイン」は、社会福祉法人きのかわ福祉会（和歌山県岩出市）が 2010 年に開設した自立訓練（生活訓練）事業である。利用期間は他の事業所と同様に 2 年間だが、2017 年から希望者は 3 年目の利用も可能となっている。

なお、きのかわ福祉会の理事長である小畑耕作氏は「学びの作業所」の命名者であり、大和大学教育学部教授でもある。

■教育内容等[54]

事業所名「シャイン（SHINE)」には、S : STUDY（学ぶ）・H : HAPPYNESS（幸せ）・I : IDENTITY（自分らしさ）・N : NICE（素敵）・E : ENJOY（楽しむ)」の意味がある。

趣旨・目的は「日常生活・社会生活能力を身につけると共に、近い将来大人になるための文化や地域社会・人との関わり方を習得し、成人した大人に成長してから社会に出られるようにする」ことであり、「何ごとにも自信を持ち、意欲的・積極的に取り組める「自立した社会人をめざす」としている。

この目標に向けて、「シャイン」は以下の 6 つを学びの柱として設定している。

① 自己表現の力を高める
② 自分で考え、自分で決める
③ 生活する力をつける
④ 自分を知る
⑤ 自分らしく生きる進路を決める

54 社会福祉法人きのかわ福祉会「シャイン」http://www.wasaren.org/kinokawafukusikai/office/shine/

⑥　余暇を豊かにする

以下に１週間のプログラムを示す（2018 年度）[55]。

図表 2-6　１週間のプログラム

	月	火	水	木	金
9:30～	朝礼				
10:00～12:00	生活 (社会生活 プログラム)	生活 (食生活と調理)	教養 (芸術)	教養 (農園芸)	生活 (体操・ エアロビ)
12:00	昼食・休憩				
13:00～15:00	特別 (テーマ研究)	基礎 (コミュニケーション)	基礎 (経済と社会)	情報 (パソコン)	余暇 (図書館)／ 振り返り会
～15:30	清掃・終礼				

教養	体操、農園芸、芸術、情報、英語など、生活を豊かにするプログラム
生活	衣食住など生活に関するプログラム
基礎	コミュニケーションや経済社会などの基礎的なプログラム
特別	外部講師、職場見学、地域に出ていくなどの特別プログラム
振り返り会	一週間の活動や、自分の行動、仲間の行動等を振り返る
テーマ研究	興味、関心のあることを年間通して調べ発表する ○1 年次 　自分の住んでいる地域について調べ、計画を立ててみんなを案内する ○2 年次 　自分の興味、関心のあることを調べる

[55] 田中良三「自立訓練事業等を活用した「学校から社会への移行期」における学びのプログラム及び支援について（メモ）」（学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議用資料）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/041/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2018/06/21/1406219_5.pdf

(3) エコールＫＯＢＥ

■概要

「エコール KOBE」（兵庫県神戸市）は、株式会社 WAP コーポレーションが運営している自立訓練（生活訓練）事業で、同社は特別支援学校専攻科をモデルとした「福祉事業型専攻科」としている。

WAP コーポレーションは 2008 年に設立され、当初は福祉事業所の商品販売を手掛けていたが、2010 年に和歌山県の学びの作業所を見学し、神戸での開設を決意、2011 年に「エコール KOBE」を立ち上げ、今日に至っている。

学園の運営理念として、以下の 4 点を掲げている[56]。

① 自立した社会人を目指して「主体的に・豊かに・楽しく」学ぶことをモットーにしています。

② 新長田地区の中で、震災からの復興、街おこしの取り組みを積極的に応援するともに、地域住民や団体との交流、共生をめざします。

③ 多くの福祉事業所や福祉団体、福祉貢献を通じて社会貢献を目指す一般企業や個人等との連携を大切にしながら、学生（利用者）の成長発達をめざします。

④ 特別支援学校との連携、近隣諸大学等との連携を視野に幅広い活動を行います。

■教育内容等[57]

図表 2-7 講義（訓練）プログラム（4 月～9 月）

<table>
<tr><td></td><td>学年</td><td>9:30
9:50</td><td>9:50
10:30</td><td>10:45
12:00
(1 時間 15 分)</td><td>12:00
13:10</td><td>13:10
14:40
(1 時間 30 分)</td><td>14:50
15:10</td><td>15:10
16:10</td></tr>
<tr><td>月</td><td>1</td><td>HR</td><td>自主講座</td><td>調理について</td><td rowspan="10">昼休み</td><td>青春講座・働くこと</td><td rowspan="2">清掃・HR</td><td rowspan="2">役員会</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>HR</td><td>自主講座</td><td>スポーツ</td><td>調理・予算</td></tr>
<tr><td>火</td><td>1</td><td>HR</td><td>自主講座</td><td rowspan="2">特別活動の計画等</td><td>予算・買物リスト</td><td rowspan="2">HR</td><td rowspan="2">美術部</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>HR</td><td>自主講座</td><td>買物</td></tr>
<tr><td>水</td><td>1</td><td>HR</td><td>自主スポ</td><td>研究ゼミ</td><td colspan="3">買物(14:10 下校)</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>HR</td><td colspan="2">調理実習(人材支援センター)</td><td colspan="3">決算(14:10 下校)</td></tr>
<tr><td>木</td><td>1</td><td>HR</td><td colspan="2">調理実習(人材支援センター)</td><td>決算</td><td rowspan="2">HR</td><td rowspan="2">サッカー部</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>HR</td><td>自主スポ</td><td>研究ゼミ</td><td>学生自治会</td></tr>
<tr><td>金</td><td>1</td><td>HR</td><td>自主講座</td><td>スポーツ</td><td>創作活動</td><td rowspan="2">清掃・HR</td><td rowspan="2">ランニング</td></tr>
<tr><td></td><td>2</td><td>HR</td><td>自主講座</td><td>創作活動</td><td>青春講座・働くこと</td></tr>
<tr><td>土</td><td colspan="5">(月 2 回程度)カラオケ・ボウリング・シネマ・野外活動等</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

56 エコール KOBE「学園の運営理念」http://eko-ru.jp/about/idea.php

57 エコール KOBE「講義（訓練）プログラム」http://eko-ru.jp/program/program.php

調理実習	班で話し合ってメニューを決め、レシピを調べて食材を買って作り、決算までを行う。
研究ゼミ	自分の興味・関心のあるテーマに基づいて、調べ、まとめ、発表する。
野外活動	自分たちで行き先を相談し、行き方、活動内容などを相談し決めて出かける。
選択講義	3 つの種目を選んで前期半年間続けて取り組み、後期は別の種目を選択する。

自主講座や自主スポーツの他、調理実習や野外活動なども生徒の自主性や主体性を育むやり方が取り入れられている。また、「エコール KOBE」は自事業を「学園」と呼んでいるが、学生自治会や放課後のクラブ活動、土曜日の登校など福祉事業というよりも「教育＝学校」に近い内容が多い点が特徴となっている。

(4) カレッジ福岡

■概要

「カレッジ福岡」（福岡県福岡市）は、特別支援学校高等部の卒業生を対象とする学びの作業所で、社会福祉法人鞍出ゆたか福祉会によって 2012 年に設立された。利用期間は 4 年間で、自らを「福祉型大学」と位置付けている。

鞍出ゆたか福祉会は、その後 4 年間の福祉型大学として「カレッジながさき」（長崎県大村市／2013 年）「カレッジ早稲田」（東京都新宿区／2013 年）「カレッジ北九州」（福岡県北九州市／2014 年）「カレッジ久留米」（福岡県久留米市／2014 年）を設立した。2018 年以降は、各カレッジの運営主体は株式会社ゆたかカレッジに変更されている。

■教育内容等

「カレッジ福岡」が掲げる教育目標、めざす学生像を以下に引用する。

図表 2-8　教育目標

①　生きる事に必要な能力、人生を楽しむ能力、忍耐・努力する能力の育成。
②　個性や自主性を育てるとともに、伝え合う力を高め、協調性を養う。
③　社会で生きていく能力と、社会で生きる意欲を育てる。

図表 2-9　めざす学生像[58]

○　授業もプライベートも、すべての事柄に対し意欲的に、積極的に取り組み、結果に対しての振り返りを行い、次に繋げる意識を持った人物に。

58 カレッジ福岡「めざす学生像」https://fukuoka.yutaka-college.com/

○　協力して達成することで得られる"絆"や"仲間意識"を大切にし、社会性と人間性に富み、何事にもくじけない強い精神力を持つ人物に。 ○　興味関心の範囲を広げ、健全な心と正しい物の見方を身に付けることで、心豊かな優しい人物に。 ○　他者への思いやりと協調性を大切にし、人として豊かな人間性を感じさせる人物に。 ○　幾多のカリキュラムを経て"成長した自分を自分で褒める"ことができる人物に。自己を認めて初めて他者を認めることができる。

「カレッジ福岡」の教育課程を構成する各教科の概要（目標・単元）を以下に引用する。

図表 2-10　各教科の概要[59]

教科	概要
ホームルーム	行事に向けての準備、企画、運営、計画の立て方、公平な情報量での選択、意見交換、プレゼン、クラス共通の課題等についての話し合い、ディスカッション等 ○目標：コミュニケーション能力や問題解決能力を育成 ○単元：①行事計画・運営　②余暇活動計画　③話し合い　等
教養・生活	結婚、育児、社会参加、障害者福祉制度、施設サービス、地域サービス、権利擁護、時間管理、安全・危機管理、住まい、掃除・整理、衣類管理、外出、余暇等 ○目標：幅広い知識を養い、教養あるおとなを育成 ○単元：①決まり　②社会参加　③生活管理　④環境美化　⑤身だしなみ　⑥マナー　等
基礎学力	漢字の読み書き、文章読解力、聞き取り、文章の構成、四則計算、時間の計算、資料読み取り、パズル、語学力、コミュニケーション力、表現等 ○目標：日常生活に必要な伝え合う力を育て、数量や図形などについての理解力を高める ○単元：①話すこと　②聞くこと　③書くこと　⑤読むこと　⑥数と計算　⑦量と測定　⑧図形　等
ヘルスケア	栄養、食材の流れ、農家体験、魚釣体験、安全な食事、調理計画、食文化、ストレッチ、ストレス発散、身体の仕組み、病院利用、メンタルヘルス等 ○目標：健康な暮らしを営む力を育てる ○単元：①食育　②身体のしくみ　③生活習慣　等
経済	電卓使用法、電卓検定、買い物の仕方、買い物の方法、計画、実践、トラ

59 カレッジ福岡「各教科の概要」https://fukuoka.yutaka-college.com/about/

	ブル回避、一人暮らし、金銭管理、銀行やＡＴＭの利用等 ○目標：金銭を管理する力を育てる ○単元：①電卓　②買い物方法　③経済生活　等
文化芸術	絵画、掲示物制作、生産活動、陶芸、工芸、音楽、映画、美術作品、詩、写真、外国文化（クリスマス）、演劇、書道、昔の遊び、基礎学力、器楽、歌唱等 ○目標：余暇が充実する力を育てる ○単元：①創作　②音楽　③文化　等
労働	職種を知る、職場見学・体験、働く意味、就労意欲の向上、職種の絞込み、物づくり、販売体験、自己分析、就労能力評価、履歴書、アポイントメント、面接練習等 ○目標：仕事に就く力を育てる ○単元：①仕事の探し方　②働くこと　③実習　④労働準備　等
スポーツ	ウォーキング、ジョギング、ダンス、登山、ハイキング、球技、野外レクリェーション、屋内レクリェーション、体操、筋トレ、ヨガ等 ○目標：基礎体力を育て、健康な体を育成 ○単元：①体力づくり　②球技　等
自主ゼミ	インターネット・文献・新聞・テレビのニュース番組からの情報収集、研究の仕方、発表の仕方、発表、グループ研究、発表準備（役割分担等）、グループ発表等 ○目標：コミュニケーション能力、情報活用能力を育て、学びの主体性を育成 ○単元：①情報収集　②グループ学習　③研究発表　等
資格・検定	パソコン（ワープロ）検定資格の取得、資格調べ（種類・方法・費用）、受験、パソコン（ワープロ）検定試験対策、各個人での試験対策等 ○目標：各種資格・検定に合格する力を育て ○単元：①目標設定　②試験対策　等

次に引用するのは、「カレッジ福岡」の 4 年間の教育課程と根拠となる法令の関係を図示したものである。

「教育課程」と区分されている 1・2 年次の 2 年間の活動は、障害者総合支援法の自立訓練事業である。一方、3・4 年次の 2 年間の活動は、障害者総合支援法の就労移行支援事業で、最長 3 年間が可能となっている。

配置されている教科は、大きく「1～4 年次共通」「1・2 年次共通」（自立訓練事業）「3 年次」（就労移行支援事業）「4 年次」（就労移行支援事業）に分けられている。

図表 2-11　教育課程と法的位置づけ・基本時間割[60]

<table>
<tr><td>学年</td><td>1・2 年</td><td>3 年</td><td>4 年</td></tr>
<tr><td rowspan="3">課程</td><td>教育課程</td><td colspan="2">専門課程</td></tr>
<tr><td colspan="3">【生活を豊かにする教育】
・ホームルーム
・自主ゼミ
・スポーツ
・文化芸術
・余暇活動
・行事活動
【将来設計を考える教育】
・労働
・資格検定
・職場見学
・職場体験</td></tr>
<tr><td>【生活力を身につける科目】
・教養、生活　・経済
・基礎学力　・調理体験
・ヘルスケア</td><td>・SST(社会生活技能訓練)
・事務管理実務
・生産実務
・清掃業務
・調理実務
・パソコン実務
・介護実務</td><td>【就労現場で自信をつける科目】
・インターンシップ(週 3 日)
・インターンシップ(1 カ月)
・インターンシップ(3 カ月)</td></tr>
<tr><td>根拠法令</td><td>障害者総合支援法
自立訓練事業（2 年間）</td><td colspan="2">障害者総合支援法
就労移行支援事業（最長 3 年間）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>時間</td><td>学科</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr>
<tr><td>10:00～10:15</td><td rowspan="2">共通</td><td colspan="7">朝のミーティング</td></tr>
<tr><td>10:15～10:45</td><td colspan="7">健康つくり</td></tr>
<tr><td>10:45～12:00</td><td>生活</td><td colspan="7">授業　※75 分</td></tr>
<tr><td>10:45～12:15</td><td>普通</td><td>HR</td><td>一般教養</td><td>労働</td><td>ヘルスケア</td><td>文化芸術</td><td rowspan="5">【学生企画】
余暇活動行事等</td></tr>
<tr><td>12:00～13:15</td><td>生活</td><td colspan="6">昼食・休憩</td></tr>
<tr><td>12:15～13:15</td><td>普通</td><td colspan="6">昼食・休憩</td></tr>
<tr><td>13:15 ～14:30</td><td>生活</td><td colspan="6">授業　※75 分</td></tr>
<tr><td>13:15～14:45</td><td>普通</td><td>経済</td><td>生活</td><td>資格・検定</td><td>スポーツ</td><td>自主ゼミ</td></tr>
<tr><td>14:30～15:00</td><td>生活</td><td colspan="7">自主学習</td></tr>
<tr><td>14:45～15:15</td><td>普通</td><td colspan="7">自主学習</td></tr>
<tr><td>15:00～15:30</td><td>生活</td><td colspan="7">清掃</td></tr>
<tr><td>15:15～15:30</td><td>普通</td><td colspan="7">清掃</td></tr>
<tr><td>15:30～15:40</td><td>生活</td><td colspan="7">帰りのミーティング</td></tr>
<tr><td>15:30～15:45</td><td>普通</td><td colspan="7">帰りのミーティング</td></tr>
</table>

※表中の列「学科」の「生活」は生活技能科、「普通」は「普通科」

生活技能科は概ね療育手帳 A 判定の方が対象

60 カレッジ福岡「教育課程」https://fukuoka.yutaka-college.com/curriculum/

(5) くれおカレッジ

■概要[61]

「くれおカレッジ」（滋賀県大津市）は、社会福祉法人共生シンフォニーが運営する学びの作業所である。主に知的障害のある人、発達障害のある人を対象に、通所型自立訓練（生活訓練）と就労移行支援を一体的に行っている（対象は 22 歳まで）。4 年間の学びの場で教科学習、生活訓練、余暇活動、就労訓練など様々な経験と自己決定を通じて、働き続ける力、社会で生きていく力を育むことを狙いとしている。

■教育内容等

以下に「くれおカレッジ」のカリキュラムを引用する[62]。

図表 2-12　カリキュラム

科目	内容
ミーティング 掃除	毎朝、その日の予定を確認します。 金銭管理の練習のために、出納帳（お小遣い帳）をつけます。 グループに分かれて、役割分担をしながら掃除を行います。 ※3、4 年では就職をイメージして挨拶の練習や身だしなみのチェックをおこないます。
コミュニケーション・SST	挨拶、友達にお願いをする、友達を遊びに誘う、誘いを断るなど、普段の生活のなかで人と接する場面を想定して、言葉遣いや顔の表情などについて話し合い、ロールプレイをしながら学びます。
公文式学習 （算数・国語）	公文式を導入し、学力だけでなく、集中力や持続力、マナーなどの向上をめざして、教科学習をします。
パソコン	ローマ字入力による文書作成や簡単な表計算ができるようになるための学習をします。希望者は MOS（マイクロソフトオフィススペシャリスト）等の資格取得を目指します。
英会話	日常で使われている英語や文字、実際に使える会話を学習します。 外国の習慣や文化も学びます。
演劇	発声練習や、役割を演じることによる感情の理解や、仲間同士のコミュニケーション、表現などを中心として学びます。
美術	自然や造形に親しみ、想像力や感性を高めます。自由に表現することを促しつつ、観察力や注意力を高めます。
書道	文字をきれいに書くための練習を基本に、文字による表現について学びます。

61 社会福祉法人共生シンフォニー「くれおカレッジ」https://gambatta.net/publics/index/95/
62 くれおカレッジ「カリキュラムの内容と説明」https://gambatta.net/publics/index/95/

音楽	音楽に親しみ、表現力や感受性、協調性を高めます。
体育	ヨガ、ダンス、武道、ボート、集団スポーツなど様々な運動をとおして、仕事をしていくための体力を身につけます。
保健	自身の体のことや障害に関すること、性などについて学びます。
生活	生活を豊かにしたり、日常生活で想定される場面での対応の方法を学びます。 ・ 電車やバスなどの公共交通機関の利用について学び、実際に利用しながら学習していきます。 ・ 預金口座の管理、ATM の扱い方の他、日常的なお金に関することについて学びます。 ・ 図書館などの社会資源の利用を実際におこないながら社会生活のスキル習得を目指します。 ・ マルチ商法やクーリングオフなど、消費者問題についての知識を学び、安全に暮らすための方法について考えます。
HR （ホームルーム）	くれおカレッジでのルールや、過ごし方など、テーマを決めて、学生同士で意見を出し合って話し合いをします。外出活動の予定も、この時間に話し合います。
サークル活動	学生の主体的な活動を大切にし、毎週水曜日夕方に 1 時間ほど時間をかけて好きなことができるようにします。学生個人での活動だけでなく、学生同士のサークル活動などいくつかのグループに分けて活動します。
調理実習	生きていくのに不可欠な「食べる」ことについて学び、自分で調理ができるよう、食材の買い出し、調理、片付けの実習をおこない、栄養バランスなどについても学習します。
大学との交流	一般の大学のゼミに参加したり、大学の食堂で食事をしたりするなど、同年齢の青年との学びあいや関わりをつくります。
外出活動	余暇を充実させる練習を兼ねて、月一回の外出を、行き先、タイムスケジュール、交通手段等について学生同士で話し合って決め、出かけます。
CREOFF （余暇活動）	月に 1 回から 2 回程度、土日で外出や調理、レクリェーション等を実施しています。（自由参加）
仕事・職場見学 （2 年生～）	工場などの見学に行き、卒業後の仕事や、働くイメージをふくらませます。また、事前、事後の学習で働くことについて学びます。
修学旅行	修学旅行については、3 年生に海外への旅行を予定しています。パスポートの申請などを実際におこなって手続きを勉強します。また、授業時間を利用して、自分で旅行先の情報を収集ながら学習します。
ビジネスマナー （3 年生～）	職場を想定して、服装、電話の応対、職場の人間関係などを中心としたミーティングやロールプレイを行いながら、働く上で必要となるルール

	やマナーについて学習をします。
ワーク （3 年生～）	ハローワークや障害者就業・生活支援センター等の関係機関スタッフ、また実際に働いている人を招いて、就労についての知識を深めます。また、履歴書の書き方の指導や模擬面接の実施、働くにあたっての制度についても学習します。
作業訓練 （3 年生～）	就労環境を想定して、立ち姿勢での軽作業や接客のための販売練習、委託清掃訓練等をおこないます。また一般企業と連携した就労トレーニングプログラムを行います。
職場実習 （3 年生～）	実際の職場での実習を行い自分に適した仕事について考える機会にします。

上記の通り、「くれおカレッジ」のカリキュラム（科目構成）は多彩だが、中でも「公文式学習」を取り入れている点が特徴である。カレッジの立ち上げ時にカリキュラムを構想する過程で、就労移行支援事業所「就職するなら明朗アカデミー」（千葉県成田市）が公文式学習を支援プログラムのメインに位置づけ、就労実績を向上させていたことを知り、公文式学習をメインカリキュラムとすることとした。公文式学習は月曜日から金曜日までの午前中に組み込まれており、教員は「学生の達成感は大きい」「毎日集中して学習するという体験が大切」などの感触を得ている[63]。

図表 2-13　時間割例（2016 年 7 月）[64]

	月	火	水	木	金	土
	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23
1		公文(算数)	調理実習	公文(算数)	公文(算数)	
2		公文(国語)	調理実習	公文(国語)	公文(国語)	
3		調理事前	公文(国･算)	食育	HR	
4		コミュニケーション	サークル活動	パソコン	演劇	
	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30
1	公文(算数)	公文(算数)	公文(算数)	公文(算数)	公文(算数)	石山夜市
2	公文(国語)	公文(国語)	公文(国語)	公文(国語)	公文(国語)	
3	体育(ヨガ)	音楽	HR		コミュニケーション	
4	パソコン	コミュニケーション	サークル活動	生活(交通安全)	HR	

63 公文教育研究所「KUMON トピック 知的障害者のための”大学”ーくれおカレッジ」
http://www.kumon.ne.jp/kumonnow/topics/vol043/
64 くれおカレッジ「時間割」https://gambatta.net/publics/index/95/

3. オープンカレッジ

3.1. オープンカレッジの概要

「オープンカレッジ」は、大学・短期大学（以下、大学）が知的障害者に対して学びの機会を提供する取り組みである。その先駆けとなったのは大阪府立大学（で、1998 年にオープンカレッジを開講し、1 期生 24 名を迎え入れた。この活動に賛同した大学関係者を中心に広がりをみせ、1999 年には武庫川大学と桃山学院大学、2000 年には徳山大学と宮城大学で実施されることとなった。その後も、オープンカレッジの取り組みは全国的に広がっている。また、「全国オープンカレッジ研究協議会」も発足した[65]。

大阪府立大学がオープンカレッジの立案・実施に際して掲げた理念は、以下の 3 点である[66]。

① 知的障害者の人権（教育を受ける権利）の保障
知的障害のある人にとって「教育の場」は養護学校までであり、それ以降は大学などの高等教育を受ける機関への進学は難しい。そういった人たちにも等しく教育を受ける権利を保障すること。

② 知的障害者の変化（発達）の可能性の保障
知的障害のある人にとっては、新しい情報や技術を得る機会は極端に少ない。そのような、よりよく生きるための情報や技術を自らの自発性に基づいて吸収し、仲間と共に成長していくきっかけを提供する。

③ 地域社会に対する大学の貢献
生涯学習ニーズのうねりに応じて、知的障害のある人を含めたすべての学習意欲のある人、知を求める人たちに知識・情報を提供し、広く地域社会に貢献することを目指している。

講義の内容は、各個人のニーズや社会生活を送る上で発生する生活課題を中心に、受講する人の希望や好みを聞き、開講している。そのテーマ・内容は非常に多岐に亘っており、具体的には、社会福祉、障害者福祉、社会福祉援助技術、法学、経済学、心理学、健康科学、栄養学、図書館学、国語、外国語、コミュニケーション論、芸術（音楽・書道・タイルアート・写真など）、レクリェーション論、体育実技（カヌー・剣道）、危機管理、手話などである[65]。

---

65 牧野誠一「知的障害者の高等支援学校卒業後における学びの場の保障」（2016）
66 http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Cafe/7180/concept.htm

3.2. 具体的な事例

(1)　大阪府立大学オープンカレッジ

■概要

大阪府立大学は、1998 年から知的障害者のための大学（教育を受ける場）として、オープンカレッジ（通称 :「オプカレ」）を実施している。この活動は障害者の生涯学習を支援する優れた取り組みとして、「平成 29 年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰」を受賞している。以下、資料「平成 29 年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰」事例集 3」[67]を引用し、実施内容や実績を報告する。

対象は大阪府内に居住する 18 歳以上の知的障害者で、現在は 2 年間のプログラムを実施している。場所は大阪府立大学中百舌鳥キャンパスで、概ね毎月第一日曜日に午前・午後、それぞれ 1 コマ（90 分）ずつの開講である。

講義では、学生（オプカレでは受講者をこう呼ぶ）の希望に基づき、福祉、美術、歴史など幅広いテーマを扱っている。また、障害者福祉論やグループワーク論のような理論型の授業だけでなく、スポーツや料理など生活をより楽しむための実践型授業も実施している。

さらに、遠足や修学旅行、学園祭参加など各種のイベントでの交流や社会参加の機会も設けられている。こうしたオプカレの実施の様子は、Facebook ページ「大阪府立大学オープンカレッジ」で発信されている[68]。

講師は、大阪府立大学や他大学の教員、特別支援学校の教員や福祉施設の職員、当該テーマに精通した社会人などが担当している。また、学生の障害の程度や能力によって、学習の進度や理解に差が生まれないように、「サポーター」と呼ばれるスタッフを配置している。担当するのは、大阪府立大学の学生、他大学の学生、社会人で、学習以外のサポートや学生同士の関係づくりの促進、協力者・仲間・友人としての関係づくりの支援などの役割も担っている[69]。

■実績

2018 年 3 月に第 6 期生 21 名が修了し、現在は第 7 期生が受講中である。以下に第 1 期から第 6 期の参加者数を引用する。これまでに 140 名が参加している。

図表 3-1　オプカレの修了者数

期	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期	第 5 期	第 6 期
人数	24 人	29 人	25 人	25 人	16 人	21 人

67 文部科学省「平成 29 年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰事例集 3」
http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/__icsFiles/afieldfile/2017/12/14/1398900_3.pdf
68 https://www.facebook.com/opu.opencollege/
69 http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Cafe/7180/concept.htm

(2) オープンカレッジ東京（OCT）

■概要[70]

「オープンカレッジ東京（OCT）」は、東京学芸大学が、成人期知的発達障害者（2004 年以降定型発達者も含む）を対象に、1995 年から実施している生涯学習支援の取り組みである。これも大阪府立大学オープンカレッジと同じく、「平成 29 年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰」を受賞している。

オープンカレッジ東京の始まりは、東京学芸大学が知的障害者を対象に開講した市民公開講座「自分を知り、社会を学ぶ」（1995 年）である。これは、既存の大学公開講座の形態を利用することで、知的障害者の学習の場づくりの道を模索したもので、この講座を実施することで、「満 18 歳で学びの課程が終わるはずはない」との確信を得て、「自分を知り、社会を学ぶ」を独立・発展させる形でオープンカレッジへと展開していった[71]。

東京学芸大学のオープンカレッジは、テーマにより下表のように大きく 4 期に区分されるが、オープンカレッジ東京の名称が使われるようになったのは第 3 期以降である。

図表 3-2　東京学芸大学のオープンカレッジ・テーマの変遷

第 1 期 （1995～2003 年）	東京学芸大学公開講座 「自分を知り、社会を学ぶ」
第 2 期 （2004～2005 年）	東京学芸大学 「いっしょに学び、ともに生きる」
第 3 期 （2006～2014 年）	オープンカレッジ東京（OCT） 「いっしょに学び、ともに生きる」「いつでも学べる、どこでも学べる」
第 4 期 （2015 年～）	オープンカレッジ東京（OCT） 「考える“わざ”を学ぶ」

■講座の内容[72]

講座領域として、以下の①～④に示す「生涯発達・地域生活支援 4 領域」を設定していたが、青年・成人期の生涯発達支援における支援課題を検討した結果、⑤として「健康支援領域」を設定し、健康問題を考える構成へと更新している。

① 学ぶ・楽しむ（学習・余暇支援領域）
② くらす（自立生活支援領域）
③ はたらく（作業・就労支援領域）
④ かかわる（コミュニケーション支援領域）

---

70 菅野敦「オープンカレッジ東京の取り組み」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/041/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2018/06/13/1405899_7.pdf
71 牧野誠一「知的障害者の高等支援学校卒業後における学びの場の保障」（2016）
72 文部科学省「平成 29 年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰事例集 3」
http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/__icsFiles/afieldfile/2017/12/14/1398900_3.pdf

オープンカレッジの開催期間は 9 月～12 月、講座の回数 4 回、これに加えて学習発表会 1 回が設定されている。講座の開発は 1 月～8 月の期間で行われるが、毎月運営委員会が開催され、ひとつの講義について 3 カ月ほどかけて計画・立案される。

現在の講座テーマは「考える”技”を学ぶ」で、日常生活で自己決定に関わる力を身につけることを目的とする講座を実施している。2017 年度は 4 講座「サイエンスラボ」（身近にあるものの性質について科学実験を通して明らかにしていく）、「ディスカバーWorld」（食材の比較を通して地域の特徴を知る）、「日常生活の”考えるわざ”」（日常生活で起きる問題（電車が遅れた時どうする等）を自分で解決する方法を身につける）、「大事なものを選択する”わざ”」（働く場所、生活する場所などの選び方を知る）を開講した。

1995 年から 2017 年までに開設した講座数は 115 である。以下に、実施した講座（一部）の領域別分類を引用する。

図表 3-3　これまでに開講した講座（領域）

領域	講座名
学ぶ・楽しむ	書道で SHOW、Let's Dance、サイエンスラボ（科学講座）、ディスカバーJAPAN World（地理講座）等
くらす	安心安全ケータイライフ、自分を守る～消費者被害からの回避、自分を守る 2～携帯電話でのトラブルと消費者金融　等
はたらく	くらしのマネー講座～今後の生活設計、自己理解、キャリアをデザインする　等
かかわる	裁判と人権、自分を守る（街で・職場で出会うトラブル・嫌な気分の時）、好印象を与える身だしなみ　等

■実績

1995 年から 2016 年の受講者数（延べ）は約 300 名、うち 20 年間連続で参加している受講者が約 10 名もいる。直近過去 6 年間の受講者数は下表の通りで、毎年 50～70 名の水準となっている。また、平均年齢は 30 代前半で推移しており、“学生”よりも年齢層は高めである。

図表 3-4　過去 6 年間の受講者の変遷

	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年
受講者数	50 名	58 名	68 名	76 名	67 名	61 名
平均年齢	31.0 歳	31.0 歳	33.3 歳	33.4 歳	34.6 歳	32.5 歳

なお、当初は東京学芸大学附属養護学校（特別支援学校）の卒業生を対象としてスタートしたが、現在では神奈川・千葉・埼玉の近隣各県だけでなく、福島、新潟、京都、山口、北海道などの遠方から参加する受講者もいる。

(3)　　杜のまなびや

■概要

「杜のまなびや」は東北大学の学生と知的障害のある方々が共に学ぶ、2006 年度開講のオープンカレッジである。当初の 2006 年度から 2009 年度までは、東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター先端的プロジェクト型研究として運営され、2010 年度以降は同センター地域教育支援部門生涯学習支援事業として開講を続けている[73]。

対象は、ひらがなの読み書きができる高校 3 年生以上の知的障害者、及び大学生・大学院生である。

講座の基本的な進め方は、講師による説明だけでなく、講義を受けた後に受講者同士による話し合いや発表などのグループ活動を行い、最後に講義の内容をまとめるという流れで、受講者参加型の組み立てとなっている。

■講座の内容

2006 年度（第 1 回）から 2016 年度（第 11 回）の開講講座のテーマを以下に一覧で示す。

各回・各講座はそれぞれ単発で完結しており、1 テーマの時間数は概ね 2 時間程度である。内容は特定の領域や分野に偏っておらず、多岐にわたっている。先に報告した「オープンカレッジ東京」の項で紹介した生涯発達・地域生活支援の 4 領域の視点でみると、各領域に対応したテーマが設定されていることがわかる。

図表 3-5　開講講座[74]

2006 年度 （第 1 回）	10 月 14 日（土）14:00～16:00 11 月 18 日（土）14:00～16:00 12 月 9 日（土）14:00～16:00	外国に生きるこどもたち 見るということ 働くことについて
2007 年度 （第 2 回）	7 月 14 日（土）13:15～16:00 8 月 4 日（土）14:00～16:00 9 月 1 日（土）14:00～16:15	自分ってなんだろう？ はたらくということ 2 スポーツについて いろいろ考えてみる
2008 年度 （第 3 回）	10 月 18 日（土）13:45～16:00 11 月 8 日（土）10:00～15:00 12 月 13 日（土）10:00～12:15	スポーツのルールについて いろいろ考えてみる 自分の生きざまを語る／他者の生きざまを聞く ことばって なんだろう
2009 年度 （第 4 回）	10 月 24 日（土）10:00～12:15 11 月 28 日（土）10:00～12:00	からだをつかって考えよう 五感で学ぶわざの世界

[73] 東北大学「東北大学オープンカレッジ杜のまなびや」https://www2.sed.tohoku.ac.jp/~morimana/
[74] 東北大学「これまでの講義」https://www2.sed.tohoku.ac.jp/~morimana/history/

	12 月 13 日（土）10:00～12:15	自分の生きざまを語る／他者の生きざまを聞く 2
2010 年度（第 5 回）	10 月 23 日（土）10:00～12:15 11 月 20 日（土）14:00～16:00 12 月 11 日（土）10:00～12:15	私が生まれたとき 教育を科学しよう 自分の生きざまを語る／他者の生きざまを聞く 3
2011 年度（第 6 回）	10 月 29 日（土）10:00～12:15 11 月 19 日（土）14:00～16:00 11 月 26 日（土）10:00～12:15	防災・ひと・絆 語りを束ねることで見えてくることー調査をしようー（2 回）
2012 年度（第 7 回）	10 月 13 日（土）14:00～16:20 11 月 17 日（土）14:00～16:00 12 月 8 日（土）10:30～15:20	働くことについて あなたはどんな性格？ 学んだことをつたえあう
2013 年度（第 8 回）	9 月 28 日（土）14:00～16:20 10 月 19 日（土）10:00～12:00 11 月 9 日（土）14:00～16:20	「ちがう」ということを考えてみよう 自分の考えを伝えよう ワークショップーかんじる・つながる・りかいする
2015 年度（第 10 回）	10 月 24 日（土）14:00～16:20 11 月 14 日（土）14:00～16:00 12 月 5 日（土）14:00～16:20	つたえる・つたわる 音楽の教育って？ お金ってなんだろう
2016 年度（第 11 回）	12 月 3 日（土）14:00～16:30	自分の気持ちと仲良くなろう

※2014 年度（第 9 回）のみ Web サイト上で閲覧が不可

(4)　　知的障がいがある人のオープンカレッジ in 松江

■概要[75]

「知的障がいがある人のオープンカレッジ in 松江」は、島根大学（「知的障がいがある人のオープンカレッジ in 松江」実行委員会）が、2008 年 10 月から始めた知的障害者（18 歳以上）を対象とするオープンカレッジで、「平成 29 年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰」を受賞している。

1 期 2 年のプログラムで、開催場所は島根大学松江キャンパスである。開催時期は毎年 10 月と 3 月、それぞれ 2 日間の日程となっている。各日の内容は、1 日目の午前が全体講義、午後が選択講義、2 日目の午前は全体講義で午後は交流会という構成が基本である。講義は座学だけでなく、演習も用意されている。また、3 月の開催では、工場見学や博物館見学などの課外学習が設定されている。

図表 3-6　実施した講座（2013 年度）[76]

3 月	栄養学、ヨガ教室、マナー講座、国語、歴史
10 月	音楽、天文学、美術、文化人類学、あいサポーター研修

オープンカレッジを運営する実行委員会は、島根大学福祉社会コースの学生らによる学生スタッフと、松江市社会福祉協議会、松江市手をつなぐ育成会の社会人スタッフで構成されている。学生スタッフが全体の企画の中心としての役割を担い、受講者募集から学習サポーターの募集、講師探し・手配、さらには講義の内容の調整まで幅広く関わっている。社会人スタッフは、こうした学生スタッフに対し助言等をしていく。講座当日の運営は、実行委員会のメンバー全員で担当している。

---

75 文部科学省「平成 29 年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰事例集 3」http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/__icsFiles/afieldfile/2017/12/14/1398900_3.pdf

76 島根大学社会文化学科福祉社会コース「知的障がいのある人のオープンカレッジ in 松江　受講生募集のお知らせ」http://www.fukushi.shimane-u.ac.jp/2014OC.pdf

(5) オープンカレッジ in 北海道医療大学

■概要

北海道医療大学では、2003 年 4 月からオープンカレッジを実施している。

当初の講座内容は、下表に引用するように、1 講目を「生活編」、2 講目を「教養編」とする構成であった。受講者は 1 講目・2 講目から各 1 講座を選択し受講する。

図表 3-7 第 1 回オープンカレッジ in 北海道医療大学[77]

	講義内容	内容
1 講「生活編」	地域福祉学	地域で暮らすこと
	社会保障論	暮らしの中で役立つ福祉制度
	倫理学	時間や物の大切さ
2 講「教養編」	美術	赤や白の粘土を使った焼き物づくり
	音楽	ギターを使って
	書道	毛筆を使って字を書く
	サッカー	サッカーを楽しむ

引用資料 77 では、第 10 回から 15 回に開催された講座について、下表のような 3 区分「生活編」「教養編」「生活＋教養編」で整理してみせている。下表は、引用資料 77 に第 16・17 回の開講講座を引用者が追加したものである。

図表 3-8 開講講座[77] [78]

区分	講座名
生活編	「噛むことの勧め」「口の中の話・虫歯の原因と予防」「介護について知ろう」「介護体験」「命と性」「薬の面白さと怖さ」「安全学」「バイキンをやっつけよう」「ウェルネス体操」など
教養編	「英語」「スワヒリ語」「経済学」「法学」「美術」「色彩学」「社会学」「心理学」「生理学」「生物学」「看護学」「アイヌの文化に触れ合おう」「札幌市資料館（体験講座）」「絵巻をみてみよう。よんでみよう」「茶道」
生活＋教養編	「札幌市の水道を知る」「お部屋を花で飾りましょう」「マジック」「年賀状づくり」「ありがとう日本ハムファイターズ」「カレンダーづくり」「ヨガ」「地域で暮らす技術」など

77 牧野誠一「知的障害者の高等支援学校卒業後における学びの場の保障」（2016）
78 北海道医療大学「オープンカレッジを定期開催しています」
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~chiikirenkei/extension/08/open2.html

4. 障害者職業能力開発校

本章では、障害者職業能力開発校が実施している、知的障害者対象の訓練コースの事例を報告する。

4.1. 宮城障害者職業能力開発校

(1) 短期課程総合実務科

図表 4-1 短期課程総合実務科（1 年コース）[79]

訓練コース名	短期課程総合実務科（1 年コース）
訓練期間	1 年間
定員	30 名
概要	職場への適応力・専門性を高めることで、職業人としての自覚を持ち、実務作業を担う人材を育成します。
訓練内容	○ 入校後、3 週間の基本作業を中心とした導入訓練を行い、その後、本人の適性と希望を含めて総合的に判断し、コースを決定します。 ○ 導入訓練では、基本的生活習慣、体力増強、パソコン操作を行うとともに、手工芸・物流ワーク・販売管理コースを受講することにより、職域の拡大と労働習慣と基本的な作業能力などを身につけます。 ○ さらに、専門コースを受講することで、職場での適応力・専門性を高め、職業人としての自覚を持って実務作業ができる知識と技能を訓練します。
訓練科目	【手工芸コース】 □学科：社会、体育、生活指導、紙器概論、紙器製造法、縫製一般、ビジネスマナー、安全衛生 □実技：機械基本作業、紙器基本作業、手縫い基本作業、ミシン基本作業、皮革基本作業、安全衛生作業、パソコン 【物流ワークコース】 □学科：社会、体育、生活指導、OA 機器、物流概論、在庫管理、ビジネスマナー、安全衛生 □実技：OA 機器操作実習、物流管理実習、商品管理実習、清掃作業実習、安全衛生作業 【販売管理コース】 □学科：社会、体育、生活指導、OA 機器，販売管理、接客対応知識、安

[79] 宮城障害者職業能力開発校「短期課程総合実務科」
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/miyashou/soujitsu.html

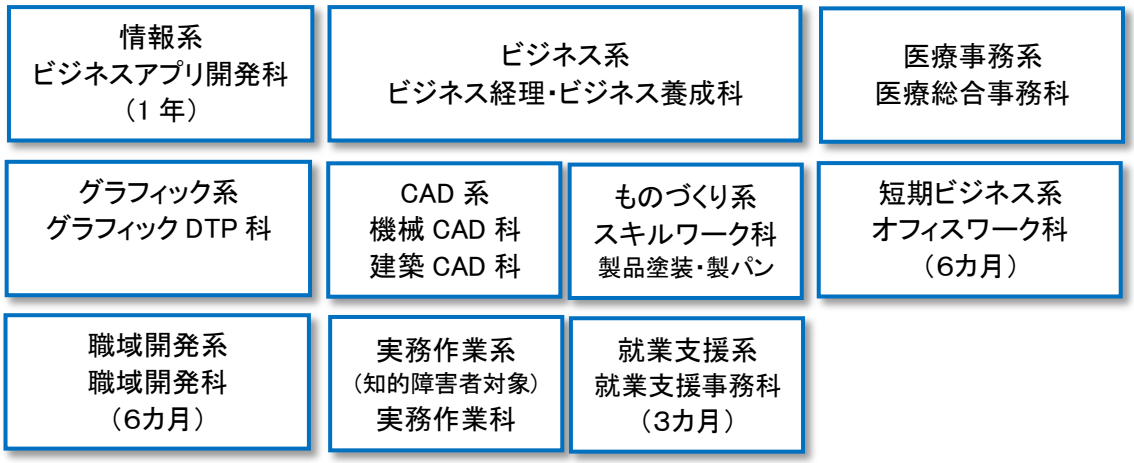
	全衛生、OA 機器操作実習、販売管理実習、接客応対実習、安全衛生作業 □実技：OA 機器操作実習、販売管理実習、接客応対実習、安全衛生作業

4.2. 東京障害者職業能力開発校

東京都では、東京障害者職業能力開発校と都立職業能力開発センターの一部科目で知的障害者を対象とする職業訓練が実施されている。都立職業能力開発センターでは軽度の知的障害者を対象とする訓練が実施され、東京障害者職業能力開発校は、職業能力開発センターで訓練を受けることが困難な身体障害者と知的障害者、精神障害者、発達障害者を対象としている。

東京都における知的障害者対象の科目内容を以下に引用する（平成 28 年度の科目例）[80]。

図表 4-2　科目内容



以下、東京障害者職業能力開発校のホームページで公開されている「実務作業科」と「職域開発科」の内容、カリキュラム等を引用する。

（1）　実務作業科

図表 4-3　実務作業科[81]

訓練コース名	実務作業科
訓練期間	1 年間
定員	30 名

[80] 東京都『事業主と雇用支援者のための障害者雇用促進ハンドブック』（平成 28 年度版）
[81] 東京障害者職業能力開発校「実務作業科」
https://www.hataraku.metro.tokyo.jp/school/handi/jithumusagyo.html

概要	働き続けるために、社会人として必要な心がまえ・労働習慣・体力および集団への適応能力などを、「体力づくり」「適応基礎」「グループワーク」等の訓練を通して学びます。職場における最低限必要な技能を付与し、多様な仕事に適応できる能力を高めます。さらに、個々の能力と適性にあわせながら、ワークアシスト要素作業、ワークアシスト基本作業、ワークアシスト総合作業の実習により、段階的に必要な技能を習得します。
訓練内容	※下表参照

区分	教科目名	標準時限数	訓練内容
学科及び実技	社会・安全衛生	64	ホームルーム、労働安全衛生、環境教育
	安全衛生作業法	8	防災訓練、安全衛生作業
	体力づくり	240	基礎体力養成、競技ルールの理解、各種競技
	適応基礎	148	自己理解、コミュニケーション、社会習慣、職場適応
	グループワーク	148	集団適応、協調作業
	ワークアシスト要素作業	224	共通作業、事務作業、パソコン作業、清掃作業、加工作業
	ワークアシスト基本作業	480	事務基本作業、物流基本作業、販売・店舗基本作業、環境整備基本作業、製品加工基本作業
	ワークアシスト総合作業	288	事務総合作業、流通総合作業、環境整備総合作業

(2) 職域開発科

図表 4-4 職域開発科[82]

訓練コース名	職域開発科
訓練期間	6 カ月間
定員	10 名 ※対象：発達障害者・精神障害者
概要	ビジネスマナー・コミュニケーションスキル・健康管理等の社会生活技能を身につけるとともに、障害への理解・認識を深めることで、個々にふさわしい就労形態や職種を見出すための技能訓練を実施します。 入校後 1 ケ月半の技術体験を行い、希望や適性に応じて「事務」または「物流・サービス」を選択し受講していただきます。その後、企業実習により就労イメージを形成していきます。
訓練内容	※下表参照

[82] 東京障害者職業能力開発校「職域開発科」
https://www.hataraku.metro.tokyo.jp/school/handi/shokuiki.html

区分	教科目名	標準時限数	訓練内容
学科及び実技	問題解決技法	20	原因と対策、ロールプレイ、意見交換、自己評価など
	社会生活	200	目標設定、ビジネスマナー、ビジネス文書、コミュニケーションスキル、健康管理など
	就業基礎	60	履歴書・職務経歴書等作成、面接演習、校外実習準備、就職準備など
	技術体験（事務）※1	40	事務補助業務、タイピング、文書入力基礎、表計算・データ入力基礎、事務機器取扱い
	技術体験（物流・サービス）※1	40	物流作業、軽作業、販売接客業務、組立・分解、清掃
	選択実技（事務）※2	244	事務基礎、事務補助、ワープロ、ワープロ応用、表計算、表計算応用、データベース、プレゼンテーション、資格試験対策
	選択実技（物流・サービス）※2	244	物流・サービス基礎、軽作業、販売・接客、清掃、ファクトリー、レストラン、喫茶サービス

※1　技術体験は全員が履修します。

※2　各選択実技では、履修する訓練内容を選択します。